

# 大麦管理情報 (第2号)

## 1 気象経過

- (1) 10月：平均気温は17.1℃（平年差+0.7℃）と平年より高く、降水量は153.0mm（平年比95%）と平年並、日照時間は130.2時間（平年比91%）と少なかった。
- (2) 11月上旬：平均気温は14.4℃（平年差+1.5℃）と平年より高く、降水量は19.5mm（平年比30%）と少なく、日照時間は42.9時間（平年比102%）と平年並だった。

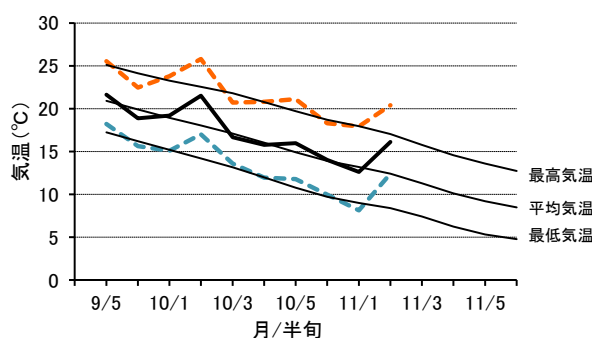


図1 気温の推移 (富山地方気象台)

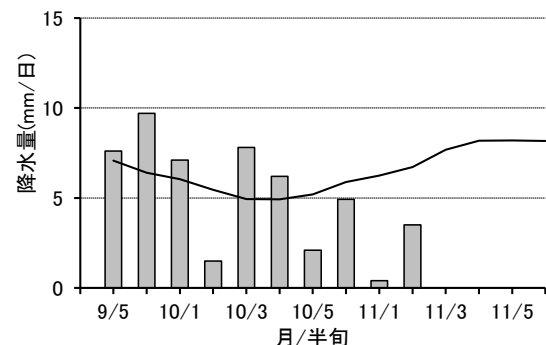


図2 降水量の推移 (富山地方気象台)

## 2 生育概況

- ・平年と比べ、葉齢はやや進み(平年差+0.3葉)、草丈は長く(平年比116%)、茎数は並(平年比102%)、葉色は並(平年差+1.5)となっている。

表1 大麦生育観測ほ等調査結果 (11月15日)

(播種様式：ドリル)

	播種期 (月/日)	苗立数 (本/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)	調査 点数
				(本/株)	(本/m <sup>2</sup> )			
31年産	10/8	178	29.5	3.2	557	5.1	40.8	10
30年産	10/5	196	23.2	2.7	531	5.2	37.5	10
平年	10/6	176	25.4	3.1	545	4.8	39.3	—

注) 平年は21～30年産の平均。

## 3 当面の技術対策

### (1) 排水対策の徹底による越冬前茎数の確保

- ・越冬前茎数を確保するためには、ほ場の乾きを促進することが重要である。ほ場毎に、排水溝の崩れや排水口への連結・排水口の掘り下げ状況等を点検し、随時手直しを行い、排水に努める。

### (2) 分施肥体系の年内追肥による茎数の確保

- ・基肥窒素は、播種1か月後には大麦の吸収や溶脱により土壌中の残存量が少なくなるので、追肥は、播種後1か月頃に、窒素成分で10a当たり4kgを目安に施用する。ただし、追肥時に、茎数が600本/m<sup>2</sup>を超えて過繁茂となっているほ場で色ざめがみられない場合は、窒素成分で10a当たり2～3kg施用する。
- ・年内追肥は原則として、播種後1か月頃の一回のみとするが、12月初めの生育が、茎数500本/m<sup>2</sup>以下で、かつ、葉色がSPAD値で30以下のほ場では、窒素成分で10a当たり2kg以内の施用を行う。